

2019年度収支決算の概要について

青山学院財務部

2019年度決算報告書（学校法人会計及び収益事業部会計）は、2020年6月25日開催の理事会で承認されましたので、ここにご報告いたします。決算の詳細は、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表等をご覧ください。

そのうちの事業活動収支について概要をご説明いたします。事業活動全体では、事業活動収入計359.7億円、事業活動支出計339.9億円となりましたので、基本金組入前当年度収支差額は19.8億円の収入超過となりました。

事業活動別に見ますと、教育活動収支差額は15.6億円の収入超過、教育活動外収支差額は、収益事業部会計からの0.5億円を加え6.5億円の収入超過となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額の二つを合わせた経常収支差額は22.1億円の収入超過となりました。経常的な収支を除く特別収支差額は2.3億円の支出超過となり、経常収支差額と特別収支差額の合計が、基本金組入前当年度収支差額19.8億円となります。

科目別に主なものを見ますと、授業料等の学生生徒等納付金270.6億円は前年比1.8億円の減収となりました。大学ではコミュニティ人間科学部新設や学費改定の年次進行効果により増収となりましたが、女子短期大学の募集停止により学院全体で減収となりました。一方、補助金（施設設備補助金も含む）32.9億円は前年比2.2億円の増収となっております。人件費194.7億円は、前年比0.2億円の増加となりました。教育研究経費117.7億円及び管理経費21.1億円には、2019年度ICT基幹ネットワーク更改費用4.1億円、ICT教研系システム費用3.6億円、大学図書館業務委託費用2.1億円、警備業務委託費用1.7億円などが含まれ、教育研究経費は前年比1.1億円の増加、管理経費は前年比1.0億円の減少です。

このほか、資金収支計算書に計上する主なものとして、施設関係支出で、相模原キャンパス陸上競技場用地（一部）13.3億円、青山キャンパス受変電設備棟3.9億円、設備関係支出で、2019年度ICT基幹ネットワーク更改設備3.1億円などがあります。また学生、生徒、児童、園児の安全安心のため、青山・相模原の両キャンパスにおける校舎等の天井耐震補強工事（3カ所）計1.9億円も実施いたしました。

以上のように2019年度決算は、教育活動収支差額、教育活動外収支差額ともに収入超過となり、経常収支差額、基本金組入前当年度収支差額も前年度並みの収入超過を確保することができました。これは、現場の教職員の努力に加え、各設置学校別の収入予算策定の厳格化とそれに見合った支出予算の厳密な管理といった予算制度上の改革効果が表れてきたものと言えます。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、今後の学校運営における不確実性が高まっております。社会全体がこれまで経験したことのない事態に直面している中で、教育の質を低下させることのないようオンライン授業の実施、GIGAスクール構想実現に向けた設備の充実、また経済的支援のためオンライン授業環境整備給付金の支給、コロナ特別奨学金による在籍者支援にも取り組んでいます。これらは2020年度に10億円超の補正予算を編成する予定です。厳しい環境下においても、質の高い教育研究の実現、財政基盤の強化に努めてまいります。

以上